

会 議 録

会 議 の 名 称	第3回 矢島地域協議会
開 催 日 時	平成18年11月27日(月) 午後6時00分
開 催 場 所	日新館ホール
出 席 者 氏 名	出席者名簿」のとおり
欠 席 者 氏 名	佐藤永吉、小番 功、相庭直一、三浦 省、相庭幸子、佐藤健美、三浦秀人 近藤正満 8名欠席
会議次第 1. 開 会 2. 会長あいさつ 3. 区長あいさつ 4. 協 議 - 分科会 (分科会にて意見交換) - 全体会 (分科会で協議されたことを発表) 5. その他 6. 閉 会	
会 議 の 経 過	別紙のとおり

◆出席者名簿

(28名)

委員 22名)	R けい子	事務 3名)
会 長 鈴 木 清	佐 藤 嘉 孝	振興課 滝野由紀夫
副会長 武 内 詔 子	佐 藤 孝 義	振興課 佐藤昌司
秋 山 哲 朗	沼 倉 睦 子	振興課 Iひろ子
佐 藤 政 一	東 海 林 晃	
茂 木 好 文	東 海 林 久 美 子	
土 田 龍 太 郎		
赤 川 祐 一		
佐 藤 久 美		
三 浦 良 明		
小 沼 文 夫	区長 1名)	
佐 藤 伸 一	自治区長 佐 藤 徳 弥	
土 田 典 子	総合支所 2名)	
佐 藤 功	支所長 植村清一	
佐 藤 寿美子	振興課長 土田隆男	
打 矢 正 敏		
八 坂 美 智 子		

平成 18 年度 第 3 回地域協議会

・会長あいさつ

・区長あいさつ

協議

第 2 回協議会で協議された件について 2 つぐらいに絞っていただき、内容を詰める作業を行ってもらいたい。まとめたものを市に提出していきたい。

(分科会)

・ 3 分科会にわかれて協議

(全体会)

・ 協議した内容を各分科会より発表

(分科会での協議)

第一分科会

打矢委員より引き続き司会して進行する。

各分科会で協議した案件を 2 つぐらいに絞って協議してもらいたいとのことなので、委員皆様から意見を出してもらいたい。

A 委員 ～巷では、TDK が移転するという話がある。中高連携校建設の伴う跡地の問題の 2 点が大きな問題である。

B 委員 ～前回、出席しておらず、内容をしっかり把握できないが、前回の協議内容をみると合併していいところがないとの意見があるが、悪いところを替えてもらいたいという提言なのか、伸ばしてもらいたい部分について提言するのか、分科会で話し合う目的が明確でなく、方向性が見えないため、発言しづらい。

C 委員 ～前回の分科会では、合併後 1 年半たって、委員皆さんがどのように思っているか。発言してもらったものであり、結果的に合併したけれどあまり良くなっていないと感じられる。

D 委員 ～前回の協議では、5 つぐらいの項目について協議したと思う。

①環境整備のボランティアの問題 ②道路整備の問題 ③自動販売機の空き缶回収の問題④中高連携校建設の問題 ⑤行政サービスの問題というのが出ているが、全体的に出ている問題では、環境問題や行政の縦割りの解消があるのではないか。高校跡地に箱物を作るだけでなく、生活に密着したものの整備を優先してもらいたい。

E 委員 ～高校跡地利用をどうするのかということと TDK の移設問題を取り上げてもらいたい。

F 委員 ～市になったので市全体でものをみななければならないと考えるようになった。夕張市の問

題もあるので、合併特例債があるからといっても同じ借金なので、できるだけ借金をしないで生活できるようにしていかなければいけないのではないかな。私たちも同じ状況になったら大変なのでその状況がわからないので見えるようにしてもらいたい。

2つ目としては、地域の生活をどのように作っていくかということを取り上げてもらいたい。

G委員 ～合併したといっても各地域が同じ状況にはない。地域には特色があるので合併なったから全部一緒というのはむずかしい。地域がやってきた良いところを伸ばす。(残す。) 一気にすべて一緒にするのは戸惑いがありすぎる。地域に重点を置いてもらいたい。中高連携校建設については、関心があり、現在の場所から高校がなくなると寂しくなると思うので跡地問題についても興味がある。

H委員 ～合併してメリットがないといわれているが、職員はいつもどおりがんばっているのではないかな。(文化祭、国体リハーサル大会)
婦人会など諸団体では、地域周辺部の会員はいるが、特に地域中心部の会員数が少なくなってきたので、中心部の会員増加への取り組みが必要なので行政のバックアップもお願いしたい。
由利本荘市となり、本荘が中心部になることは当然であるが、地域でもっと協力していただける体制づくりが必要ではないかな。

C委員 ～行政の縦割り制度の解消の問題については、もっと具体的な話しができるテーマなので話し合いを進めたい。

E委員 ～この問題については、矢島総合支所での対応できるものなのか。

B委員 ～施設だけでなく、意識の持ち方で可能なものでないか。施設の利用については、補助事業の決め事により利用の仕方が限定されることがある。

D委員 ～学校行事のもち方、スクールバスの運行状況に地域格差があるがどうなるのか。
また、地域によっては、市バスを運転手の費用を負担することで利用できるようになっている。同じ市でありながら地域によって格差がある。

F委員 ～矢島、鳥海、由利地域は、まだ恵まれていると思う。本荘地域は、もっとひどい。
他の地域だんだんサービスの低いに揃えられてしまうのではないかな。
地域に応じた対応を今後もお願いしたい。いらないものにお金をかけず、必要なものにお金をかけてもらいたい。見えるところにだけお金を使っているように見える。
本当に必要な部分は切り捨てられているように見える。

C委員 ～全体と地域のバランスは、相反することである。各地域が主張すれば全体がまとまらないし、全体にあわせると一つ一つの予算が削られるようになる。この協議会では、矢島地域のことを良くするために協議を行っているので、地域の要望を出していきたい。
TDKの移設問題については、中高連携校建設に伴って移設計画がでてきたと聞いた。
施設も老朽化しているし、設備の増設ができないので移設するとのこと。中高連携校の建設が進んでいるのに、TDK問題を話するのも変であるが、一部用地を提供することで存続できないものなのか。TDKがなくなると食堂や商店等連鎖的に売り上げに響

くものと思われる。だが、企業としては、立地条件のいい場所に建設をするのが当たり前でもある。

H委員 ～T D Kが移転すれば、勤務する人もかなり負担が増え、大変になると思う。

C委員 ～2つに絞るということで前に戻ります。

E委員 ～学校跡地の問題は、具体的な案があれば示してもらいたい。小学校はどうなるのか。

区長 ～高校跡地については、歴史、文化という部分をポイントに残していければと考えている。
中学校跡地については、スポーツゾーンとして活用がいいのではないかと考えている。
小学校は、当面現在の場所のままとなっている。

A委員 ～跡地利用では、他のグループから出た中で支所の空き部屋の活用とか八朔祭りの展示場所というのも検討してもいいのではないか。

C委員 ～予算がないというのがわかっているので、あれこれやってくれというのもつらい。

F委員 ～中高連携校建設は決まっていますが、今後の子供の数等は調べてあるものなのでしょう
か。10年間で子供が少なくなった時に、今後小学校を立て直さなければならなくなった
時に、中学校の建物使うというようなことができないか。中学校をそのような構想で
建てられないものか。

区長 ～現在の計画は補助事業として行っているので将来小学校に利用するという構想を盛り込
むことはできない。

F委員 ～現在の計画を将来的に柔軟に変えられるような施設にすればいいのではないか。

区長 ～中高連携校は、矢島高校に中学校から自動的に入ってくるわけでないため、高校として
の魅力作りが必要となってくる。

C委員 ～普通高校だけではだめである。高校に行きたいといったときに、スポーツが強いとか
進学、就職等の特徴がないと入学してもらえない。どこにもないような学科を新設する
というのも必要ではないか。たとえば、英語科とか、このままではまた廃止対象の高校
になりかねない。

区長 ～高校は、県で建設するものであり、高校は高校生にあった規格で建設されるものです。

C委員 ～10年後を見据えて建てることはよいが、10年後まるっきり変わってしまうことも考え
られる。10年15年たったら

A委員 ～規格の違いから、建物を別用途に利用する場合、かなりの手直しが必要となるのではな
いか。

F委員 ～10年、15年後を考慮にいれた施設建設を考えるべきでないか。その方がやりやすいの
でないか。何も考えず中学校は中学校、高校は高校というふうに建設するのはいかがな
ものか。

人がいなくなって、施設が残り、その施設どうするかというふうにならないよう多樣的
に利用できるようにした方がいいのでないか。どうせ借金で建てる施設であり、返さな
ければいけないものであれば、考慮するべきでないか。

C委員 ～小中を構想にいれて設計建設するのは、コスト面でも割高になるのではないか。

F委員 ～小学校が古くなり、建て替えしなければいけない状況となったとき、鳥海地域と由利地域に分散させられることになれば大変なのではないか。

C委員 ～中学校はなるかもしれないが、小学校は、通学単位があるのでならないと思う。

C委員 ～ここで2つにテーマを絞りたいと思います。

①TDKの移設問題 ②学校跡地利用について（中高連携校建設） ③ボランティア問題④道路整備 ⑤生活密着した問題（生活環境） ⑥施設利用問題 ⑦行政の縦割り制度の問題 この中から一つ目に ②学校跡地利用について選びたいと思う。

E委員 ～前回、自動販売機脇にゴミ箱を設置してもらいたいという意見を出しているが、これまでは、ゴミ箱があったものが撤去されたものですし、コンビニには、必ず設置されているので、売る以上はゴミ箱を設置するのが当然だと思うし、行政の指導も必要ではないか。

C委員 ～空き缶回収について行政の問題である。各店が空き缶を洗って出さなければいけなくなったためにとても洗うことができないことから空き缶回収ボックスを撤去したのである。だから、空き缶を洗わなくてもよければ、また、空き缶回収ボックスを設置すると思う。

E委員 ～洗わなくても出してもいいといっても、空き缶の中にタバコの吸い殻が入ったりしていると、具合がわるいと思う。

C委員 ～前回も言っているが、本荘市では、洗わなくてもゴミに出すことができるのだから、そのようにすることも可能ではないか。そうすれば、この問題は解決するのではないか。

B委員 ～物品販売の場合は、売ったものが片付けなければならないと決まっている。自動販売機の場合も、やはり回収して処分する責任があるのではないか。

C委員 ～自動販売機の設置契約の違いにもよるのではないか。業者が引き取るケースもある。市民の負担を考えたときに、地域によって違うのはいかなものか。

B委員 ～リサイクルの観点からいくと、洗った出した方がいいのではないか。本荘地域が洗わなくてもいいから、矢島もあわせるというのは良くないのではないか。ちょっと難儀でも、いい方にあわせるべきだと思う。

C委員 ～リサイクルした空き缶等をどこで洗うかという問題だと思う。全員で洗って出すか、業者が持って行って業者が仕事の一貫として洗うかだと思う。このレベルは、市全体で統一されるべきものとする。現実的に販売する人は、回収した空き缶を洗うことは難しいことだと思う。

D委員 ～町内のU字溝がこわれたので、支所をお願いしてすぐやってもらった。旧町時代に行った下水道工事により部分的に舗装し直しを行ったため道路のデコボコになっていたが、冬が到来する前に埋めてもらっているが、熱を加えた舗装でないためボロボロと剥がれてきている。そのような箇所を調査して年次計画で修繕してもらいたい。そのような修繕を末端ですぐ対応できるような予算立てもお願いしたい。

区長 ～今年度は、修繕に支所長決裁で行える予算が置かれている。来年度も継続して予算措置がされる予定となっており、緊急性のある修繕に対応できるようになっている。

- B委員** ～今年度、立石の道路が舗装になっているが、もっとやるべき箇所があったのではないかな。
- 区長** ～道路修繕等は優先順位をつけて実施している。
- C委員** ～総合支所なのだからなにもかも本庁に聞くのではなく、決裁権限をもう少し総合支所におけないものか。
前にも話しをしたが、組織の問題で矢島総合支所でも、すぐ対応できる体制をとることができるものか。
- 区長** ～一つの課ですべてできるとはいかないものの連携して対応することは可能だと思う。
市民が訪れた課に職員が来て対応することもできると思う。
- C委員** ～二つ目の項目として、⑤生活密着した問題（生活環境）と総合支所の対応力についてとしたいと思います。

第一分科会のテーマ

①学校跡地利用について

②生活に密着した問題（生活環境）について

第二分科会

- I委員** ～I先生から出されたもので、寺子屋の師匠の碑が現存するがその各地域にあるものを後生に伝えていかなければいけないのではないかな。矢島地域に限らずそのような資料あわせてまとめることができれば非常にいいことではないかな。
文化財審議委員に矢島からは今野銀一郎先生しか入っていないが、各地域から2～3名ぐらい調べている方いれてもっと力を入れるべきでないかなと思う。この問題を取り上げたい。
- I委員** ～前回の会で具体的に出したけれど、今後どのように後生に伝えていくかを考えるべきと思ひ発言したものである。
- I委員** ～中高連携校建設について、高校跡地の問題はどのようなになっているのか。
- 支所長** ～21年春の開校ということで進んでいる。高校の解体については、21年度だと思うがそれ以降に更地になり、跡地利用ということになる。保存とか活用というのは非常に大事なことである。佐藤家住宅の改修にあたっては、有利な起債を活用するため過疎債により事業を実施している。県からは、ただ保存するだけではだめであり、その施設を都市との交流や子供たちとの交流というもので活用しないと意味がないと言われている。
佐藤家は、今、見どころ案内人からも活用してもらっている。現在、高校跡地は更地にしておけないことから跡地利用のための検討会を行っている。その検討の中では、旧小路を活用しながら復元しつつ、子供と大人との交流の場や武道館を利用しつつ増設して剣道や柔道ができるように「藩学館」という名称で整備したらという検討も行っている。
前から計画されている顕彰館建設についても、矢島は他に類をみないほどの顕彰することができる偉人を輩出していることからあわせて顕彰する場を整備したらということも出ている。

I 委員 ～建物が古しくて取り壊ししなければいけないとすれば仕方ないが、もし利用できるのであれば残して活用することもできるのではないか。その施設を利用して市の文化財にもなっている八朔まつりの展示スペースとして活用もできるのではないか。

支所長～体育館等は古くなっている。高校跡地は、大きい事業としては、八森城址周辺整備事業としてもっていくべきと考える。子供のころからこの周辺を見てきて、どこにでもあるものと思ってきたが、八森城址のようなところは、他にはなかなかないところではないかと考えている。国の登録文化財である八森苑や龍源寺だとか城址のお堀だとかいろいろなお寺があり、景観を考えたとき体育館は景観になじまないのを取り壊した方がよいと思われる。

J 委員 ～高校校舎は、危険校舎となっているのではないか。建て替えの事業を行うにあたり、まだ利用できるから利用するというのは、公にはなかなか難しいのではないか。維持管理費用を考えた時も難しい。

支所長 ～館町の武道場や丸森の柔道場もかなり老朽化しており、その施設も集約しながら藩学館構想の中にとり入れできればいいかと思う。

K 委員 ～他地域からおぼこ号を利用して矢島を訪れた際、1 時間程度の待合い時間がある時に、八森城址をまわれるようなコースを作り対応してもらえればいいと思います。

I 委員 ～前回は案内板やパンフレット、地図の作成など、同様の意見が出ている。

K 委員 ～最近、リュックサックをもった中高年の女性などが矢島を訪れ駅にいて、タクシーを利用して観光していることがあるが、岩手県遠野市のようにタクシーの運転手が、矢島の史蹟や歴史等の説明ができれば非常にいいのではないか。

I 委員 ～テーマをもう一つ皆さんから選択してもらいたい。

I 委員 ～今年、生涯学習発表会を聞きに来たが、観覧者がパラパラで発表する人がかわいそうである。芸能発表会と一緒に開催するなど工夫が必要でないか。

J 委員 ～毎週のように行事があり、なかなか多くの人が参集できないのではないか。矢島の人は、出足が悪いように思う。支所だより等によりPRの工夫も必要ではないか。動員する体制も必要である。

K 委員 ～大内ではCATVで流れるのでPR効果がある。今日やるものが今日流れるのでいいが、広報では、1 週間前に来たりすれば忘れることもある。

本荘でも秋に展示会を行っているが、観覧する人がパラパラである。予算を多く使っているわりには効果がないのではないか。助成金の受払のシステムも疑問があるが、今後はこのままではいけないのではないかと感じている。

I 委員 ～支所だよりの予算についてはどうか。

支所長 ～予算アップは望めないと思う。方針としては、由利本荘市一本の広報に集約していくこととしているので、総合支所だよりを出すのも反するもの。やっていない支所もある。地域のことを知らせるために実施している。

K 委員 ～もしできないなら矢島駅前にイベントの広告塔を設置したらどうか。

支所長 ～広報にも矢島地域のイベント情報が掲載されているのでそれをみていただければ周知が

できる状況にある。

L委員 ～広報には、身近な話題が少なく寂しいので支所だより等で情報を増やしてもらいたい。
あと今年も産業文化祭を実施していますが、開催日程は誰が決めたのか。文化祭の日程を移動したのでなぜか。昨年までは同じだったのに、本荘以外すべて変わったのかなと思ったが、そうでもなかった。

支所長 ～昨年から話しがあったが、由利本荘市一本で米まつりで開催できないかという検討もされたが、これまで各地域でやってきたものをすべて集約できるものではないということで開催している。開催日程については、矢島地域で決定するものです。3日といえば、他地域と重なる関係で他地域のものも見てもらいたいとのことでずらした経緯がある。

L委員 ～行政では、由利本荘市一本で実施すればいいと思うかもしれないが、住民はそうは思わない。

J委員 ～文化祭の人出は少なかったと思う。

支所長 ～作品も年々少なくなってきている。作品が少ないと見に来る人も少なくなる。子供の作品も少なかったと思う。子供の作品には、おじいさんおばあさんも来てくれる。

K委員 ～どこの地域もそうだと思うが、遠野市ではシャッター通りに行政、社協、保健所、警察が机をもってきて、お茶も飲めるコーナーを設けて、わざわざ庁舎に行かなくても済むような体制をとっている。

J委員 ～高校移転すると、人の流れが変わってくるが、新しいところが発展すればいいが、跡地の方をどのように良さを残していくかということが問題になってくる。建物を建てるに興味のある人はいいが、まだ観光地としての認知が低いと思う。

K委員 ～岩城の天鷲城はにわかには作り上げているが、矢島みたいに山ひとつあるというのはなかなかないと思うので矢島では、これを生かしていけばいいと思う。

支所長 ～市長からは、高校がなくなると人の流れがなくなるので、新たな導線を作るべき計画を検討するべきと何回となくいわれている。

J委員 ～グラウンドゴルフ愛好者がいるので、そのような施設を作り、人を集めればどうか。

I委員 ～川西家もかなり古く保存して残せればいいと思う。

支所長 ～堀江歯科の洋館も雰囲気があると思う。

あと保育所跡地については、恵育会の所有だったものが、今年寄附いただいております。

J委員 ～鳥海山を眺めているだけの時代を終わったものと思う。今後は、登山や観光等で人を呼び込める方策をとっていかねばいけない。年寄りには神社仏閣を見て歩く方もいるので検討するべきと思う。

川越市の蔵の町を見る機会があったが、蔵を利用した商売が成り立っている。誰かが仕掛けたものと思うが矢島でもそのようなことが必要なのかと思う。

広報の編集について、支所から原稿をあげてやるのか。矢島の記事の優先順位がちょっと違うのではないかと思う時がある。

L委員 ～2つ目には、高校跡地の利活用の問題はどうか。

- J委員** ～高校跡地の問題を取り上げるとすれば、早い時期に検討する体制を立ち上げて提言していくことが必要と考える。そして、要望していくことが必要。
- I委員** ～まだ進んでいないのか。
- 支所長** ～支所内でプロジェクトチームを作り話し合いを行い、そのあと企画、財政とおおざっぱな話しを行っている。
- I委員** ～地域住民を巻き込んだ会は考えていないのか。
- 支所長** ～今後、検討を行うため考えていきたい。文化財審議委員もいなくなっているので地域の知識を持った人を含めて偏らない形で行っていければいいと思う。
- J委員** ～家中に福祉施設をもっていくことはないのか。
- 支所長** ～いまのところはない。
- M委員** ～八朔まつりの山車等の展示の件もいいかなと思うが。
- J委員** ～八朔まつりの山車の展示であれば、駅舎に順番に展示するのがいいと思う。高山ではそのようなことをやっている。他からきた人が見やすいのでないか。
- K委員** ～由利高原鉄道が赤字だと騒がれるが、そのようなものを巧みに利用することで利用客を増やすということも必要でないか。
- I委員** ～地域の文化を伝承するという方策があるとすればお話ししてもらいたい。
- J委員** ～3 分科会の内容をまとめ、運営委員で協議して、各種分野で弱い部分を補完していくのでしょうか。働く場が危ういという噂も聞いているのでそのような部分など、そばに勤務場所があるのとないのでは違う。ラインの一部残すなど要望していくことも必要でないか。
- I委員** ～全体会の中で協議したい。
- 支所長** ～現在はまだ公式発表されていないのが現状。ただ社員の中から話しが出ている。今年中に取締役会により決定されるようですが、そのような状況も想定しながら、協議会でも話し合っていかなければいけないと思う。
- J委員** ～若い人を残すためには、働き場所を確保していかなければならない。農林業も衰退してきていることを考えると代替する働き場所が必要と思われる。商工業も大手に飲み込まれている。役所でも弱腰になっていると思う。是非このことも取り上げてもらいたい。
- M委員** ～合併前にあった金婚式がなくなったが今後どのようにして行くのでしょうか。
- 支所長** ～佐藤清圓前町長を会長に生駒顕彰会という団体を作り、6 月には、お茶会を開催し、金婚式についてもその団体で行うことにしている。昨年と今年の対象者の中で希望者を募り 11 月 30 日に日新館で実施する予定。 60 組中 31 組の方が参加予定となっている。費用は、会費と社協、顕彰会からの負担で実施
岩城では、敬老会と一緒に実施しているようである。
- J委員** ～行政協力員報酬のしくみが変わるが、団体割等の根拠が矢島では合わないような気がする。個人から団体に変わることはいいことだと思う。
- M委員** ～山寺は、報酬をもらおうと半分を町内会に半分を個人がもらおうようになっている。
- J委員** ～行政協力員報酬ではなく自治活動支援交付金の方を充実するほうがいいのではないかと

思う。

支所長 ～均等割の額の決定等については、各地域をまわり決定したものです。地域協議会や行政協力員会議等で地域から声を出してもらいたいと思っており、行政協力員協議会を立ち上げていきたい。今年中に立ち上げのため世話人会的なものを行っていききたい。

K委員 ～市から助成金の件ですが、他地域では、小部落の会館がかなりの数新築されている。矢島では、資金を借りて返還しなければならない。地域的に差がある。

支所長 ～合併前は地域により格差があったが、合併後は集会施設建設に補助制度ができ、最大200万円の補助金がある。矢島で行っていた貸付制度はなくなっている。矢島でも合併してから、補助制度を利用している町内がある。

J委員 ～小部落単位での集会施設整備はいらんのではないのか。旧分教場単位で整備していくべき。人口が少なくなる中二重負担はできなくなると思う。

K委員 ～旧町単位で学校は整備されていくのは変わらないのか。

支所長 ～その部分はまだ変わらないと思う。

J委員 ～学校の区域をなくしてどこの学校に入ってもいいとなると地域の学校はなくなってしまうのではないか。矢島では、教育の町としてがんばってもらいたい。

I委員 ～ゴミの有料化についてはどうなっているのか。有料化になれば大変だと思う。

J委員 ～ゴミ袋に含めて処分料をとる仕組みだと聞いている。

支所長 ～有料化することでゴミの減量化と受益者への応分の負担ということだと思う。

第二分科会のテーマ

①矢島の歴史・文化を次世代の引き継ぐ努力（方策）

②中高連携校建設に伴う高校跡地利用について

第三分科会

N委員 ～前回出たものを2つくらいにしばっていききたいと思う。どれを重点的に話していくか。高校跡地の活用について大事と考えるが、どうでしょうか。

O委員 ～我々は、高校跡地は今後さら地になるとしか聞いていない。検討委員会のようなものは今後、作られるのか。体育館・武道場はそのまま使えるのではないかと思う。

N委員 ～3班は、跡地について話題としてよいか。（全員：よい）

P委員 ～流雪溝の維持管理についてだが、他の水系との連携等について市民が自主的にやるのはよいが、間に行政が入ってもよいのではないか。消火栓、ゴミステーションの管理について地域の自主性を尊重するのはよいが、全く指導・助言等がなくなってしまうのは違うのではないかと思う。

O委員 ～同感です。移行する中で「なにもしなければ、そちらが困るから全て集落で」という風にはなってほしくない。官・民がうまく連携できるようにして欲しい。

Q委員 ～町会の総会等に支所の人に来てもらって説明などをしてもらえればよいのではないか。

P委員 ～各町内に説明に行くというのは大変だと思う。水系ごとの話し合いに来てもらえればよ

いのではないか。水系は、組合長会議のようなものがないので、横のつながりが無い。

N委員 ～除雪は、下流の方から流せばよいと思う。

P委員 ～会議の期日を支所で決め、水系の組合長に案内を出し、「会議をこの日に設定したので、各水系で除雪の時間を相談してください」という形で、間に入って欲しい。

O委員 ～今後は空き家が増える。その除雪を誰がやるかという問題も出てくると思う。

N委員 ～人事交流が始まれば、相談相手も少なくなり地域の人が不安になる。流雪溝はみんなが助けられるものだし、なくなっては困る。ぜひ、間に入って欲しい。

振興課長～難しい問題ではないと思う。

P委員 ～そういう組織を作っておけば安心できる。ルールを徹底させるためにも、全体会のようなものが必要だ。消火栓については、中が腐ってるが「直すのは『早く直してほしい』と言ったところからではないか」と言われた。

L委員 ～分団の人たちは自分たちの消火栓の中がどうなっているかわかるものだろうか？

O委員 ～分団の合併で、点検は行き届かない部分があると思う。自治会で助けなければいけない部分もあるのではないかな。

P委員 ～「消防の自主組織ができて安定するまでは行政で」という方向でお願いしたい。行政協力員会議で話が出たりしないかな。

O委員 ～出ることはほとんどない。

P委員 ～行政で声を上げて、地域の人たちが話し合いを持てるような方向にむけて欲しい。

L委員 ～人事交流が進むと、慣れるまでに時間がかかる。町内の人と職員が話し合える場があればいいと思う。行政協力員からもなかなか連絡が伝わってこない。

O委員 ～投票所が、半分になる。一気に半分に減らすというのは厳しいと思う。谷地沢が役場で投票することになれば、新荘もそうしてもいい。投票率をとるか、経費をとるかということになると思う。

振興課長～立会人を拘束する時間が長いし、やってくれる人もなかなかいない。不在者投票も増えてきている。

P委員 ～支所ごとに分担されている予算はないのか？各部ごとで縦割りなのか。建設でも産業課でも使っている予算というのはないのか。

振興課長～1,000 万円で、修繕のみに使えるものはある。支所長までの決裁で、緊急の場合のみ使えるということになっている。

P委員 ～市民→支所→本庁の各部→実行 という流れしかないのか。

振興課長～そうです。

P委員 ～協議会もあきらめずに言っていくべきだと思う。

O委員 ～7割くらいは、合併してもよいことがない。3割は、もっと良くしていけないだろうかなという考え。地域の声を出していけるのはこの会だけなので、あきらめないで声を出していければ。

由利高原鉄道について、残していくのは、地域の人声だと思う。

振興課長～県では、負担を減らしたいという方向。

振興課長～T D Kが本荘の工業団地に行くそうです。

跡地については、家中（保育園跡地も含む）～歴史ゾーン 中学校～体育ゾーン という案もある。大雑把な話で、詳細はまだ決まっていない。

N委員 ～小路を整備して、民間のみやげ物やなどを入れたりすれば、人が増えるのではないか？

O委員 ～あそこは、一体にならなければだめだ。佐藤家ができたことなどで、訪れる人も増えてきている。

L委員 ～私は、観光振興計画策定委員で、観光計画を立てた。鳥海山の観光について話す機会があってもよいと思う。

O委員 ～T D Kの跡地についても「こういうものが欲しい」というような具体的な案を出した方がよいと思う。

N委員 ～T D Kが行ってしまうことは、地域の人への影響が非常に大きい。特に食堂などは大きいと思う。

O委員 ～老人世帯などに給食センター的なものが必要になってくるのではないか。

R委員 ～子供館の利用について思うのだが、学童に入っていない人が中で遊べないのはなぜか。同じ矢島の子供なのに、遊べる・遊べないがあるのはなぜか。学童が始まると、敷地に入るのもだめなようだ。

振興課長～聞いておきます。

O委員 ～責任がどこにいくかという問題だと思う。

第三分科会のテーマ

①学校跡地利用について

②生活に密着した問題（生活環境）について

鈴木会長

今回協議されたことから第4回協議会で再度協議しながら、集約しその後必要に応じて協議会を開催し、市に要望を提出していきたい。（終了）